アルミ缶ふた
キャップ製造

暮らしと大切な資源をつなぐアルミ缶の「ふた」と「キャップ」をつくっています

もっと、くわしくみてみよう!

アルテミラ製缶株式会社 富士小山工場

所在地／駿東郡小山町菅沼1500　TEL.0550-76-3211　https://www.altemiracan.co.jp
設立／2022(令和4)年　従業員数／167名(2026年9月現在)

私たちの仕事

みなさんが飲むお茶やジュース、炭酸飲料などに使われる、アルミ缶の「ふた」やボトル缶の「キャップ」を専門につくっています。おいしさと豊かな香り、炭酸の泡をしっかり閉じ込め、だれでも簡単にパッと開けられるふたをつくるには、高い技術が必要です。安全で高品質な製品を全国に届けるため、機械の管理や厳しい検査など、たくさんの人が力を合わせて働いています。


▲富士小山工場

? アルミ飲料容器製造の仕事とは?

アルテミラ製缶製造の身近なアルミ容器

アルテミラ製缶ではアルミ容器をつくっており、富士小山工場では、容器に欠かせない「ふた」や「キャップ」を担当しています。容器本体と組み合わせることで、安心・安全に飲み物を届けます。



アルミ缶



すばやく冷え、ふたは強い炭酸の圧力に耐えながら、指先の力で安全に「プシュッ」と開けられる技術でつくられます。

アルミボトル



キャップは高い密封性で、炭酸飲料やお茶の風味を守り、フタをして便利に持ち運べるボトルを実現しています。

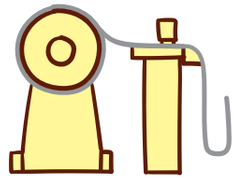
アルミカップ



イベントなどでプラスチックごみを減らせる新しい仲間です。何度もリサイクルできる地球にやさしい素材です。

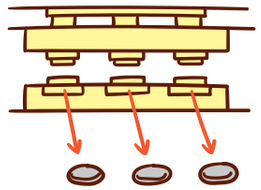
? アルミ缶のふたができる流れは?

地域イベントや回収ボックスでアルミ缶を集めています。



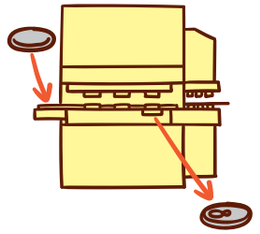
1 アルミコイルを準備する

薄く伸ばしたアルミの板を、トイレットペーパーのように巻いたアルミコイルを準備します。



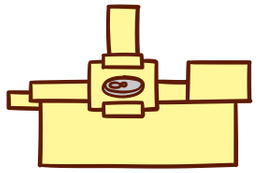
2 シェルプレスでふたの形をつくる

コイルをほぐしてプレス機に流して、アルミをふたの丸い形に打ち抜き、ふたのもとになる部品をつくります。



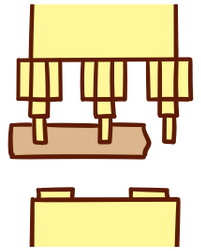
3 コンバージョンプレスでタブを取り付ける

機械でタブの形をつくりながらふたに接合し、飲み物を開けるための部分を仕上げます。



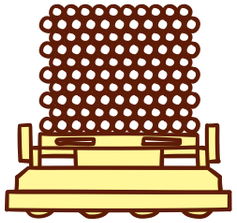
4 ライトテスターで検査する

光を当てて汚れや傷がないか検査し、飲み物の容器に使うふたとして問題がないかを機械で一つひとつ確認します。



5 梱包機でふたを袋に詰める

検査を終えたふたを、スリーブと呼ばれる筒状の袋に詰め、きれいな状態で運べるように梱包します。



6 自動倉庫へ運ぶ

ふたを自動搬送機によって自動倉庫へ運びます。倉庫で大切に保管され、飲料メーカーなどへ出荷されるのを待ちます。

働く人の声

仕事のやりがいを聞いてみました。

キャップ製造チーム　S さん

お店で自分のつくったキャップのボトル缶を見かけると、自慢したくなります。

キャップ製造チーム　W さん

仕事はチームワークが大切なので、仲間と声をかけ合いながら仕事をしています。

エンド第二製造チーム　K さん

作業方法の見直しや手順書作成をして、働きやすく効率的な工場づくりをしています。

エンド第二製造チーム　S さん

ふたをつくる工程を、機械から金型まで管理。みんなの飲み物を支える仕事が誇りです。